

社団法人ゴルファーの緑化促進協力会調査研究

環境と人にやさしい

ゴルフとゴルフ場

最終回

新成長戦略の3K、環境、健康、観光は
ゴルフ界を発展させる鍵

社団法人ゴルファーの緑化促進協力会
理事長 大西 久光



鳩山政権は新成長戦略として3Kを掲げています。この3Kは、環境、健康、観光です。これらはすべてゴルフに関わっていると言え、この三つの視点からゴルフとゴルフ場を改めて見直し、その素晴らしさを、より多くのゴルファーと一般社会の人々に知って頂くことが、ゴルフ界の発展のためには必要だと思えます。



緑化から環境全般へ事業拡大

今年のサミット会議で、ゴルフ界が取り組むテーマとして「環境」を取り上げました。CO₂を吸収して酸素を供給するという芝や樹木の植物としての効用に改めて関心が集まっています。もう少し精査する必要がありますが、少なくともゴルフ場の芝と樹木が、地球温暖化防止に一役買っていることは間違いのないことです。この話は、CO₂排出量25%削減という大きな国家目標とも関連しています。国内でのCO₂排出権取引も始まろうとしています。ゴルフ場関係者からも、このシステムを活用できないかという話も出ているように、これはゴルフ場としての今後の研究課題とも言えます。

環境問題に関しては、当協会（ゴルファーの緑化促進協力会、GGG）が2008年に実施しました「ゴルフ場の生物多様性調査」で、絶滅が危惧されている、また生息数が著しく少ない貴重な「種」がゴルフ場でいくつも確認されました。そうした貴重な種だけでなく、多くの動植物が共存し、生息していることも確認されました。このようにゴルフ場の生物多様性への対応能力は非常に高く、動植物にとって良い環



境は人間にとっても良い環境といえます。

この生物多様性については、世界 193 の国と地域（2009 年 12 月末現在）が一堂に会する国際会議、第 10 回締約国会議(COP10)が、今年 10 月に名古屋で開催されます。これを機会に多くのテレビ、新聞等のメディアが生物多様性について報じる事でしょう。

国連は 5 月 22 日を「国際生物多様性の日」と制定し、この日に世界中で植樹活動（グリーンウェーブ）を提唱しています。日本では環境省が今年は 3 月から 5 月の期間を「グリーンウェーブ 2010」として全国的な植樹を呼び掛けています。GGG では、日本ゴルフ場支配人会連合会と共同して全国のゴルフ場で植樹活動を行います。この運動には、JGA、PGA、JGTO、LPGA といった各団体にもご協力頂ける運びです。この成果を、広く公表しゴルフ界の活動をアピールしたいと考えています。ゴルフ場が環境問題に積極的に関わることで、一部で誤解されているゴルフとゴルフ場のイメージが変わると大いに期待しています。GGG としても、これまでの緑化事業の枠を超えて、環境問題全般に取り組み、ゴルファーみんなで環境を考える、そうした協会にしたいと思っています。



人を健康にするゴルフを PR

ゴルフが健康増進と維持に効果があることは、声を大きくして伝えたいことです。この連載記事の中でも紹介されていましたが、厚生労働省が進めるメタボ対策の中でゴルフが紹介され、その効果も数値で示されています。月 2 回ラウンドが、必要とされる運動量に相当します。厚生省はそうした生活(運動)習慣作りを狙っているわけですから、この月 2 回のラウンドをするために、ゴルフ練習場でボールを打ち、日常的に歩くことを習慣とする生活習慣を持つことが、生活習慣病防止につながるという良い流れを作り出せるよう、ゴルフ界もゴルファーを支える活動をしなくてはならないでしょう。生活の中心にゴルフを位置付けて頂けるようになれば、もっとゴルフ場が賑わうことは間違いない。

健康に関しては、最近さらに力強い話があります。ゴルフについて造詣の深いあるお医者さんが、1 日 1 回、体温を 1 度上げる運動を提唱されています。体温を上げることで成長ホルモンの分泌を促し、身体を健康にする。基本は歩くことで、これは受け売りですが、この運動にはゴルフが最適です。そして現代社会はストレス社会だといわれています。緑の木々に囲まれ、柔らかな芝生の感触を足に感じながら歩く。ゴルフをすることがストレスを低減する。そうした健康とゴルフについても広く一般の方々に伝えたいですね。

このように自然環境保護や国民の健康維持・増進に、ゴルフが果たす役割は大きいものがあります。ただ、少し残念ですが、どうも PR 不足だったような気がします。



観光をゴルフ市場拡大の鍵に

さて、日本のゴルフがさらに発展するためには、三つ目の K である観光という視点は非常に重要だと考えます。

これまで環境と健康について触れてきましたが、観光も二つの K と密接に関係していま

す。まず、日本は自然の魅力に溢れています。自然が豊富だから観光との組み合わせが可能になり、ここにゴルフを組み込むことができるはずです。

ゴルフマネジメント誌の連載記事で山田紘祥氏が紹介されていましたが、観光という点では日本は後進国のようです。これほど自然が豊富なのに、海外からの観光客は少ない。観光先進国のフランスには、年間 8000 万人もの観光客が訪れるそうです。日本は 900 万人弱です。国は観光庁を作り、海外からの観光客誘致、インバウンドに力を入れようとしています。

海外の人たちにとって日本の自然といえば富士山が第一に浮かぶのですが、富士山以外にも沢山の美しい自然があります。この観光資源とゴルフプレーを組み合わせることが、ゴルフ業界活性化のキーワードとなると考えています。そして、日本のゴルフ場を積極的に海外にアピールすることで、日本のあのゴルフ場でプレーしたいという、新しい需要も創造できるのではないのでしょうか。

この観光とゴルフについては、韓国に近い九州地区や福島県が韓国からのゴルファー誘致に力を入れ、大きな成果を上げたそうです。ウォン安という為替要因からちょっと陰りを心配する声があるようですが、国の成長戦略の一つに観光が挙げられるように、今の動きは中・長期に見れば一時的なものと考えられます。そして経済成長著しい中国の富裕層を対象にしたビジネスに関心が高くなっており、将来は中国からのゴルファー誘致が大きな課題となるはずです。こうした動きを考えれば、日本のゴルフ場は大きな意味で国際化して、海外からゴルファーを招き入れる努力をしなければいけないと思います。

さらに観光をキーワードにすることで海外需要の開拓だけでなく、国内の需要掘り起こしにもつながるはずです。そのためにも、ゴルフ場がプレーするゴルファーの立場に立って、コース内容やサービスについて見直す必要があるとは思っています。設計者という立場で申し上げれば、難しいコースであることが、ゴルファーの利用を増やすわけではないことを、理解してほしいと思います。やはりリピート利用して頂けるゴルフ場という視点が重要です。

さて、環境問題がクローズアップされる時代になりました。こうした時代にあって GGG の役割と責任は大きいものがあると身の引き締まる思いをしています。また、COP10 のテーマともなっています「里山」は、動物が生息できる環境を提供しているゴルフ場そのものと言ってよいのではないのでしょうか。

現在、先の多様性アンケートの結果を受けて、自然と共生するゴルフ場のコース管理についてのマニュアル作りを進めています。ご期待を頂きたいと思いますが、ゴルフとゴルフ場の良さを、まずゴルフ場関係者の方々にご理解を頂き、ゴルフとゴルフ場が人と環境に優しいことを広く一般社会に広めて頂きたいと思っています。その努力を GGG としても続けてまいります。